



2019年11月8日

各 位

会 社 名 J X T Gホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 杉森 務
 コード番号 5020 東証・名証第1部
 問合せ先 財務IR部IRグループマネージャー
 井上 亮
 (電話番号 03-6257-7075)

2020年3月期 第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2019年5月13日に公表した2020年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想数値と本日公表の実績値において差異が生じたのでお知らせいたします。

また、業績動向を踏まえ、2019年5月13日に公表した2020年3月期通期連結業績予想についても、修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期 第2四半期累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社所有者 に帰属する 四半期利益	基本的 1株当たり 四半期利益
前回発表予想(A) (2019年5月13日発表)	5,500,000	290,000	275,000	175,000	52円57銭
実 績 (B)	5,063,069	130,865	117,878	71,038	21円68銭
増減額(B-A)	△436,931	△159,135	△157,122	△103,962	△30円89銭
増 減 率	△7.9%	△54.9%	△57.1%	△59.4%	△58.8%
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	5,429,567	441,201	424,140	285,053	84円03銭

2. 2020年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社所有者 に帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
前回発表予想(A) (2019年5月13日発表)	11,500,000	550,000	515,000	320,000	96円12銭
今回修正予想(B)	10,400,000	280,000	250,000	155,000	48円15銭
増減額(B-A)	△1,100,000	△270,000	△265,000	△165,000	△47円97銭
増 減 率	△9.6%	△49.1%	△51.5%	△51.6%	△49.9%
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	11,129,630	537,083	508,617	322,319	95円36銭

(注) 2019年8月7日公表の第2四半期(累計)および通期の連結業績予想では、5月13日公表を据え置きましたが、「基本的1株当たり当期利益」につきましては、算定の基礎となる期中平均株式数を見直した結果、それぞれ「53円33銭」、「97円51銭」としておりました。

3. 第2四半期累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異及び通期連結業績予想修正の理由

(第2四半期連結累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異の理由)

第2四半期連結累計期間においては、原油・銅価格の下落等により、売上高は前回発表予想(2019年5月13日発表)を下回る結果となりました。営業利益は、原油価格下落により在庫影響による会計上の損失が発生する等、予想を大きく下回る結果となりました。

また、在庫影響を除いた営業利益相当額は、石油製品マージンの良化や経費削減、チリ・カセロネス銅鉱山の収益改善等を進めたものの、石油化学製品のマージン悪化、油価・銅価の下落による上流事業の業績悪化等により、前回発表予想比798億円減益の1,702億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益につきましても、同様に減益となりました。

[在庫影響(※)](第2四半期連結累計期間) (単位:億円)

	前回発表予想 (A)	実績 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	400	△393	△793
在庫影響を除いた 営業利益相当額	2,500	1,702	△798

※総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

(通期連結業績予想修正の理由)

原油価格の下落に伴う在庫影響は700億円の損失(前回発表予想比1,200億円減益)を見込んでおり、営業利益は前回発表予想比2,700億円減益の2,800億円となる見込みです。

また、在庫影響を除いた営業利益相当額は、石油化学製品マージンの悪化、油価・銅価の下落による上流事業の業績悪化等により、前回発表予想比1,500億円減益の3,500億円となる見通しです。

親会社の所有者に帰属する当期利益も同様に、前回発表予想から減益となる見通しです。

[在庫影響(※)](通期) (単位:億円)

	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	500	△700	△1,200
在庫影響を除いた 営業利益相当額	5,000	3,500	△1,500

※総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

なお、今年度のフリー・キャッシュ・フローにつきましては、損益見通しの下方修正に伴う減少はあるものの、運転資金の改善や設備投資の見直し等により、前回発表予想を190億円上回る600億円(休日影響除き1,590億円)となる見通しです。

本見通しは、通期平均で原油価格(ドバイ原油);バーレル当たり62ドル(10月以降60ドル)、銅の国際価格(LME価格);ポンド当たり265セント(10月以降260セント)、円の対米ドル相場;107円(10月以降105円)を前提としております。(前回発表予想:原油価格;バーレル当たり70ドル、銅の国際価格;ポンド当たり295セント、円の対米ドル相場;110円)

(注)本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、(1)マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、(2)法律の改正や規制の強化、(3)訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以上